

要申込
有料

でんおん連続講座

申込方法

はがき・FAX・電子メールのいずれかの方法により、以下の項目についてご記入の上、お申込みください。申込多数の場合は抽選とします。

①郵便番号 ②住所 ③氏名 ④電話番号(FAX番号) ⑤希望する講座

申込先・問合せ先

〒610-1197 京都市西京区大枝沓掛町13-6
京都市立芸術大学 事務局連携推進課(事業推進担当)

TEL 075-334-2204 (平日 午前8時30分～午後5時15分)

FAX 075-334-2281

E-mail public@kcua.ac.jp

会場 京都市立芸術大学
京都市西京区大枝沓掛町13-6



主催 京都市立芸術大学 <http://www.kcua.ac.jp>
日本伝統音楽研究センター <http://rcjtm.kcua.ac.jp/>
● 日本伝統音楽研究センター公式 Facebook <https://www.facebook.com/kcua.rcjtm/>

でんおん 連続講座

音源・映像・実演を交えて楽譜などの演奏資料を読み進めることで、専門的なテーマに気軽に触れていただける市民講座です。

申込方法は裏面をご覧ください
要申込
有料

定員 各講座の紹介をご参照ください。
申込受付 各講座の開講日の1ヶ月前から開始(3日前まで受付)

C 常磐津節実践入門(その8)
11月16日(金)～平成31年3月1日(金)【全8回】
講師：常磐津 若音太夫(竹内 有一)
(日本伝統音楽研究センター教授)

D 〈ボーラ伝統文化振興財団助成事業〉
三味線古譜で辿る 義太夫節の音楽
—『本朝廿四孝』四段目切「十種香の段」を例として—
12月8日(土)・12月9日(日)【全2回】
講師：山田 智恵子(日本伝統音楽研究センター客員教授)
神津 武男(日本伝統音楽研究センター客員研究員)
太田 暁子(東京音楽大学他非常勤講師、
義太夫三味線演奏家)

E 京都の琴(その6)
平成31年1月12日(土)・1月19日(土)・2月9日(土)【全3回】
講師：武内 恵美子
(日本伝統音楽研究センター准教授)

F カラダで検証する雅楽研究(その2)
平成31年3月29日(金)・3月30日(土)【全2回】
講師：田鍬 智志(日本伝統音楽研究センター准教授)
他 雅楽研究会メンバー

※ 期間中の詳細な日程・開催時間については裏面をご確認ください。

伝音 セミナー

日本の
希少音楽資源
にふれる

日本伝統音楽の講座に参加するのは初めてという方にも、気軽に受講いただけるセミナーです。

申込不要
参加無料

定員 各回につき先着 50名

第5回 無声映画からトーキー映画初期
～伝統音楽との関わり
11月1日(木)
講師：竹内 直(日本伝統音楽研究センター非常勤講師)
白井 史人(日本学術振興会特別研究員)
長門 洋平(京都精華大学他非常勤講師)

第6回 新内節に触れる
—前弾きの諸相と《蘭蝶》—
12月20日(木)
講師・演奏：細野 桜子
(本学大学院音楽研究科修士課程日本音楽研究専攻)
ゲスト演奏：新内 志賀(研進派家元)

第7回 京の都に捧げる音
—祇園囃子の調査とそれにもとづいた創作—
12月23日(日・祝)
講師：廖 婉婷(LIAO Wan-Ting)
(本学大学院音楽研究科修士課程日本音楽研究専攻)

第8回 人情と刃傷
—音で知る「股旅もの」—
平成31年
1月10日(木)
講師：齋藤 桂
(日本伝統音楽研究センター講師)

第9回 国際文化振興会レコードの
「俚謡」を聴く
平成31年
2月7日(木)
講師：出口 実紀
(日本伝統音楽研究センター非常勤講師)
大久保 真利子
(九州大学総合研究博物館専門研究員)

C 常磐津節実践入門（その8）

11月16日・11月30日・12月14日・
平成31年 1月11日・1月25日・2月8日・
2月15日・3月1日

【いずれも金曜日・全8回】
各回 13時00分～14時30分

講師：常磐津 若音太夫
（竹内 有一）
（日本伝統音楽研究センター教授）



京都生まれの初世常磐津文字太夫が創始し、江戸歌舞伎で大成させた常磐津節。古典曲を題材に、作品の歴史的背景、構成や特徴、表現技法を考察し、浄瑠璃（語り）と三味線、それぞれの演奏体験を深めます。

定 員：10名

受講料：6,000円（全8回分）

会 場：日本伝統音楽研究センター合同研究室1

D 三味線古譜で迎える 義太夫節の音楽 —『本朝廿四孝』四段目切「十種香の段」を例として—

12月8日（土）・12月9日（日）
【全2回】 各回とも 10時30分～16時00分（昼休憩を含む）

講師：山田 智恵子（日本伝統音楽研究センター客員教授）
神津 武男（日本伝統音楽研究センター客員研究員）
太田 暁子（東京音楽大学他非常勤講師、
義太夫三味線演奏家）

義太夫節は、文楽人形浄瑠璃の音楽です。語り手である太夫と三味線により、「浄瑠璃」の文章を語っていく三味線音楽でもあります。義太夫節には、三味線の楽譜があります。『本朝廿四孝』四段目切「十種香の段」を例として、江戸時代後期の三味線譜や明治期の三味線譜を比較しながら、義太夫節の音楽の変遷を辿ってみたいと思います。



定 員：50名

受講料：3,000円（全2回分）

会 場：日本伝統音楽研究センター合同研究室1

E 京都の琴（その6）

平成31年 1月12日（土）・1月19日（土）・2月9日（土）
【全3回】 各回とも 13時00分～16時10分

講師：武内 恵美子（日本伝統音楽研究センター准教授）

平成30年度前期連続講座B「京都の琴（その5）」に引き続き、琴（キン/七弦琴/古琴）の持つ特徴的で魅力的な世界観を紹介します。毎回、講義と体験実習を行います。講義では、(1)琴の様々な文化的側面を学びつつ、(2)各回1曲、琴の代表的な曲を取り上げて、曲目の背景や内容について解説した上で鑑賞します。また、(3)江戸時代に京都で活躍した琴士を、各回ひとりずつ取り上げて紹介し、京都における琴の世界を紐解いていきます。体験では、受講者の進捗に合わせて指導しますので、初めて触れる方でも大丈夫です。多少経験がある方にも御参加いただけますが、体験ですので、中級以上の方への実技指導は致しかねます。詳細はお問い合わせください。



● 楽器は用意しますが、人数によっては複数で1張を御使用いただく場合があります。琴を所有されている方は御持参くださっても構いません。

定 員：10名

受講料：3,000円（全3回分）

会 場：日本伝統音楽研究センター合同研究室1

F カラダで検証する雅楽研究（その2）

平成31年 3月29日（金）・3月30日（土）【全2回】

講師：田鍬 智志（日本伝統音楽研究センター准教授）
他 雅楽研究会メンバー

田鍬智志主宰の雅楽研究会メンバーによるリレー講座。

【レクチャー】3月29日（金）10時30分～16時20分（昼休憩を含む）

舞譜『掌中要録』による平安末・鎌倉期舞楽の再現（田鍬智志）、雅楽器の独習2～理論と実践（上野正章）、平安末・鎌倉期和琴の唐楽曲奏法の推定～梁塵秘抄口伝集などから（増田真結）、《王昭君》と貞保親王2（中尾薫）、祈祷と神楽（今由佳里）、《甘州》と《早甘州》の謎2～江戸時代天王寺方の動向と中世楽書の検討（平野みゆき）



【レクチャー&コンサート】
3月30日（土）10時00分～14時30分（昼休憩を含む）

コンサート演目：(1) 現行雅楽〈甘州〉〈早甘州〉(2) 平安末・鎌倉期舞楽の再現〈万歳楽〉〈甘州〉(3) 平安末期唐楽和琴奏法の再現

定 員：50名 受講料：2,000円（全2回分）

会 場：日本伝統音楽研究センター 合同研究室1
及び 京都市立芸術大学大学会館ホール（コンサート）

● タイムテーブル詳細は、伝音ホームページ、Facebook、Twitterにてお知らせいたします。
● 予告なく内容変更させていただく場合がございます。

第 5 回 11月1日（木）14時40分～16時10分

無声映画からトーキー映画初期
～伝統音楽との関わり

講師：竹内 直（日本伝統音楽研究センター非常勤講師）
白井 史人（日本学術振興会特別研究員）
長門 洋平（京都精華大学他非常勤講師）

会場：日本伝統音楽研究センター 合同研究室1

日本の映画と伝統音楽は無声映画の時代から深く関わっています。実際、無声映画の時代には、伴奏音楽の中に邦楽器が頻繁に使われていました。きわめて新しいメディアであった映画のなかに、伝統的な楽器や語法が入り込み、映像と組み合わせられることで何が生じたのでしょうか。本セミナーは、無声映画の伴奏音楽の調査・復元に取り組まれている白井史人氏と映画における音響について多数の論考を発表されている長門洋平氏をゲストに招き、無声映画からトーキー映画初期の時代に伝統音楽がどのように関わったのかについて、事例をもとに紐解いていきます。

第 6 回 12月20日（木）14時40分～16時10分

新内節に触れる — 前弾きの諸相と《蘭蝶》

講師・演奏：細野 桜子
（本学大学院音楽研究科修士課程日本音楽研究専攻）

ゲスト演奏：新内 志賀（研進派家元）

会場：日本伝統音楽研究センター 合同研究室1

新内節は江戸時代に生まれた、豊後系浄瑠璃の一つです。その特徴である「前弾き」の魅力を解き明かしながら、代表曲《蘭蝶》の実演を行います。

修士審査プレゼンテーション

第 7 回 12月23日（日・祝）14時40分～16時10分

京の都に捧げる音
— 祇園囃子の調査とそれにもとづいた創作

講師：廖 婉婷（LIAO Wan-Ting）
（本学大学院音楽研究科修士課程日本音楽研究専攻）

会場：京都市立芸術大学大学会館交流室

「伝統を受け継ぐと同時に、時代とともに進化させていくべき」という考えをもって、祇園囃子の音の分析を行ない、「平成女鉾清音会」の実際の稽古にも2年間参加しました。京の祇園囃子の音楽的特徴を明らかにするとともに、それを応用した新たな作品も披露したいと思います。

修士審査プレゼンテーション

第 8 回 平成31年 1月10日（木）
14時40分～16時10分

人情と刃傷 — 音で知る「股旅もの」

講師：齋藤 桂
（日本伝統音楽研究センター講師）

会場：日本伝統音楽研究センター 合同研究室1

1920年代後半、「股旅もの」というジャンルが現れます。仁義に篤い、博徒のようなならず者を主人公に、その流浪や人情を描いたもので、演劇に始まり、小説、映画、講談、浪曲、流行歌と様々な形態で作られ、人気を博しました。現代もなお多くの作品が登場しています。本セミナーは、この「股旅もの」にまつわる音楽を聴きながら、このようなアウトローの物語・音楽に人々が共感する背景を探っていきます。

第 9 回 平成31年 2月7日（木）
14時40分～16時10分

国際文化振興会レコードの「俚謡」を聴く

講師：出口 実紀
（日本伝統音楽研究センター非常勤講師）
大久保 真利子
（九州大学総合研究博物館専門研究員）

会場：日本伝統音楽研究センター 合同研究室1

外務省の外郭団体として発足した国際文化振興会（KBS、1934-1971）は、諸外国に日本の音楽を紹介することを目的として、5巻60枚におよぶSPレコード集『日本音楽集』を昭和19（1944）年に完成させました。その中から、今回は「俚謡」（民謡）に注目します。セミナーではさまざまな民謡をお聴きいただきながら、当時の民謡レコードの傾向についても探っていきます。